

西俊輔の「毎日楽しく」

Vo1.16 2006年12月号

幸せに生きるためには、欲を少なくしてこれで十分という気持ちを持つことが大事なこともかもしれない、という話をこの「毎日楽しく」では何度か書いています。でも私自身、この考え方では一生懸命に仕事をすることや商売をすることまで否定されてしまうのではないかと、ずっと疑問に思っていました。今の状態に十分満足していれば、お客様をもっと増やそうとか、会社をもっと大きくしようといったがんばる必要がないからです。

でも最近読んだ稲盛和夫氏の本に次のような記述がありました。『利を求めめる心は事業や人間活動の原動力となるものです。ですから、だれしも儲けたいという「欲」はあってもいい。しかしその欲を利己の範囲にのみとどまらせてはなりません。人にもよかれという「大欲」をもって公益を図ること。その利他の精神がめぐりめぐって自分にも利をもたらし、またその利を大きく広げもするのです。』『たとえば会社だけ儲ければいいと考えるのではなく、取引先にも利益を上げてもらいたい、さらには消費者や株主、地域の利益にも貢献すべく経営を行う。また、個人よりも家族、家族より地域、地域より社会、さらには国や世界、地球や宇宙へと、利他の心を可能なかぎり広げ、高めていこうとする。すると、おのずとより広い視野をもつことができ、周囲のさまざまな事象について目配りができるようになってくる。そうになると、客観的な正しい判断ができるようになり、失敗も回避できるようになってくるのです。』

つまり、今の状態に満足すべきなのは自分たちの利益を図ることであって、一生懸命に仕事や商売をするのは自分や家族、会社のためではなく、もっと大きな視点から世のため人のために尽くすためだと考えるべきなのでしょう。それは結局自分たちを利することにもなりますが、それによって得た利益を自分たちのために使うことは「もうこれで十分」と考えて、残りはすべて社会に還元するということが大切なのでしょうね。

(実際に行動することは大変そうですけど……。)

早いものでもう12月ですね。今年もみなさまには本当にお世話になりました。ありがとうございました。来年もみなさまにとってよい年でありますように。

